

自然・立地条件

芦別市は北緯43度、東経142度と北海道のほぼ中央に位置しており、東西に24.96km、南北に48.65km、面積865.02km²にもおよぶ広大な土地を有しています。そのうち、約88%は森林で、南東から北西にかけて空知川が流れ豊かな自然に恵まれ、1年を通して四季の変化が明瞭な地域です。気候は大陸性で年間平均気温は7.9℃と比較的温暖な方ですが、降雪量は多く、平均降雪量は約5m、最深積雪量は1mに達します。

市内にはJR根室本線が通っているほか、国道38号と国道452号の2路線の国道と11路線の道道があり、札幌市まで約110km、旭川市まで約40km、帯広市まで約140kmと道内の各主要都市を結ぶ地点に立地しています。



黄金水松



芦別の四季

歴史と文化

明治26年、山形県からの移住者によりはじめて開拓のくわが入れられ、以来、富山・石川・福井県などからの移住者により開拓が進められました。明治33年、歌志内村から独立して「芦別村」が誕生し、以後、昭和16年に町制、昭和28年に市制がそれぞれ施行され、現在に至っています。

明治30年より掘りはじめられた石炭は、大正2年、三菱鉱業が本格的に開鉱したのを契機に徐々に拡大し、「炭都・芦別」を築きました。石炭産業は全盛期を迎えましたが、昭和30年代以降急速に進んだエネルギー革命により、次々と閉山を余儀なくされ平成4年、最後まで残っていた三井石炭鉱業(株)芦別鉱業所が閉山し、「炭都」としての幕は閉じました。

市内には、炭鉱時代を物語るさまざまな郷土資料があるほか、旧石器時代より生活していた先住民族の遺産や、開拓を行った人々の歴史を物語る文化財や資料が多く残されています。そのほか、市の指定天然記念物として、樹齢1,700年ともいわれる「黄金水松」があります。